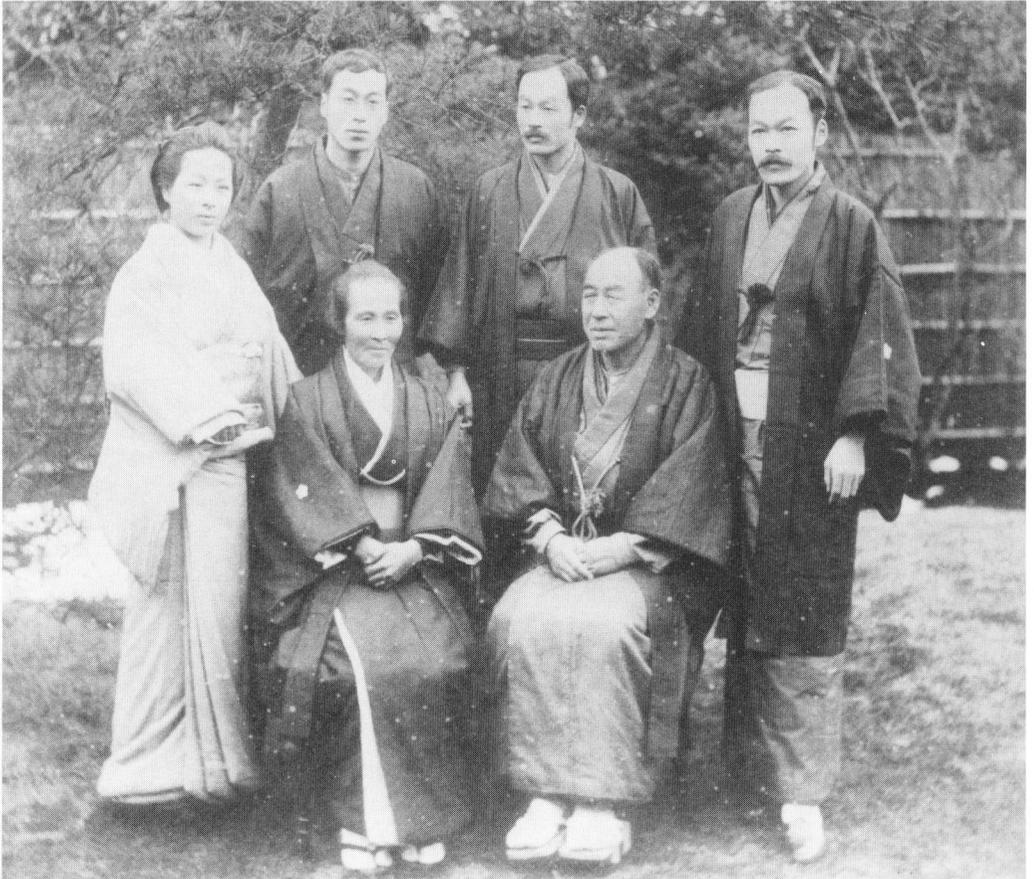


沼津市

明治史料館通信

1992. 7. 25 (季刊 年4回発行) Vol.8 No.2 通巻第30号



紳綽夫妻と子どもたち(明治26年2月5日撮影)

前列右より紳、その妻幸、後列右より長男淑、
次男順次郎、三男保三郎、次女岡田徳子

(紳愛彦氏提供)

シリーズ

沼津兵学校とその人材

29

紳
綽と

息子たち

父子で沼津兵学校の教授・生徒の間柄であった事例は、西周・紳六郎父子、渡部温・朔父子、間宮信行・信勝父子などが知られるが、ここに紹介する紳綽と淑・順次郎の父子の場合もその一例である。

紳綽(一八二三〜九四)は、沼津兵学校教授に就任した明治二年(一八六九)当時、四十六歳。頭取の西周よりも六歳年長で、教授陣の中では最長老だった。それだけに洋学者としての経歴も長く、業績もあつた。筑前黒田藩士の家に生まれたが故あつて浪々の身となり、貧窮の生活を送っていた彼が再び津藩藤堂家に仕官する好運に恵まれたのは、ひとえに蘭学の実力によるものだった。師は杉田玄端、杉田成卿。特に西洋画や写真技術に関心を持ち、研究を重ねた。安政年間の訳著書として、『西洋の工具類を精密に作図した』、『火技全書図』、『ロシア語の入門書』、『魯西亜字彙』がある。さらに抜擢され、津藩士から幕府の蕃書調所活字御用出役

に転じたのは安政五年（一八五八）。以後幕府瓦解に至るまで活版印刷・石版印刷などの研究を続けた。明治元年十月駿府に移り、

静岡学問所三等教授格に任ぜられるが、翌年沼津に転じ兵学校の図画方・三等教授並となり、四年には三等教授に進んだ。綽は旧幕時代から通称の令輔を名乗っていたが、兵学校時代に令一と改名しようである。兵学校廃止後は上京し、兵部省・海軍省・太政官地誌課に奉職し、明治十年（一八七七）を最後に官を辞した。

長男俣（一八五七〜一九七）は、江戸で開成所に学んだ後、駿府移住により静岡学問所に入學、さらに沼津兵学校附属小学校に転入した。東京大学医学部を卒業後、明治十五年（一八八二）ベルリン大学に留學し精神病学を専攻した。四年後帰国、医科大学教授に就任し、精神病学教室を開設した。我が国における精神病学のバイオニアである。

次男順次郎（一八五九〜一九三九）も明治二年四月に沼津兵学校附属小学校に入學した経歴をもつ。

十六年東京大学医学部別課を卒業、産婦人科学を専攻し、ドイツに留學もした。

三男保三郎（一八七〇〜一九二九）は沼津で生まれた人。明治三十二年（一八九九）やはり東京帝国大学を卒業。長兄の衣鉢を受け継ぎ精神病学を専攻し、海外留学から帰朝後、九州帝国大学医学部教授になり、約二十年間同大学で精神病学講座を担当した。

三兄弟とも医学博士であり、また長女小梅、次女徳子の婿（緒方正規・岡田和一郎）もそれぞれ医学博士であった。

優秀な息子たちに囲まれ、綽は幸福な晩年を送ったようである。退官後は絵画や謡曲などの趣味に没頭し、特に動物の骨格標本の製作に取り組んだ。それらの標本類は東京帝国博物館に納められたという。

〈参考文献〉『故榊令輔後綽及室幸子略伝』（一九一六年）、『榊俣先生顕彰記念誌』（一九八七年）榊俣先生顕彰会発行）、榊順次郎「履歴書」（明治二十三年）榊愛彦氏提供）ほか。

江原素八とその周辺 〈17〉

初期議会の江原素八

明治二十三年（一八九〇）十一月、第一回帝国議会が召集された。日本最初の衆議院議員三百名のひとりとして江原素八がいた。

立憲自由党・立憲改進黨の民党側は一七一の議席を有し、吏党の八十四、中立派の四十五を大幅に上回り、経費節減・民力休養をスローガンに予算の削減を主張、政府との対決姿勢を強めた。

第一議会は、自由党土佐派の裏切りで政府予算案が成立し、終了するが、翌二十四年十一月開会の第二議会では再び予算をめぐる民党と政府が激突する。軍艦建造費などを削られ、激昂した海軍大臣樺山資紀は「薩長政府とかいっても、今日まで国家・国民の安全を保ちえたのは誰のおかげか」と放言、この蛮勇演説をきっかけに十二月には衆議院は解散される。そして翌二十五年二月には政府の大干渉で名高い第二回総選挙が行われることとなるのである。

江原は自由党の一員であり、民党側としての態度は鮮明だった。樺山海相の蛮勇演説に對しては、たとえ薩長が明治維新の功労者であったとしても、「如何に功があると雖も、其過が大なる時には、其功は或は皆無にならないとは申せません」と皮肉たっぷり批判している（『鉄道拡張案を論ず』『自由党々報』12）。第二回総選挙の大干渉については、「政府若し尋常の徳義を守り、非常の干渉を為さざるに於ては、三百代議士中、政党以外の者は僅に数人に出ざりしならん」と批判する一方、民党對政府という争点の明確化が逆に、有権者が候補者を選ぶ場合に「只た人物論のみを以て足れりと為さず、其人の政党性如何に着意」するようになったという点や、地方中流以上の人が政党的必要性を知り加盟するようになった点をよしとしている（『政黨員の注意』『自由党々報』9）。

傍聴規則摘要

第八條 公衆ノ傍聴ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ

第九條 議員ノ傍聴人ヲ紹介スルハ傍聴人紹介人并ニ其氏名ヲ傍聴券ニ記入スヘシ

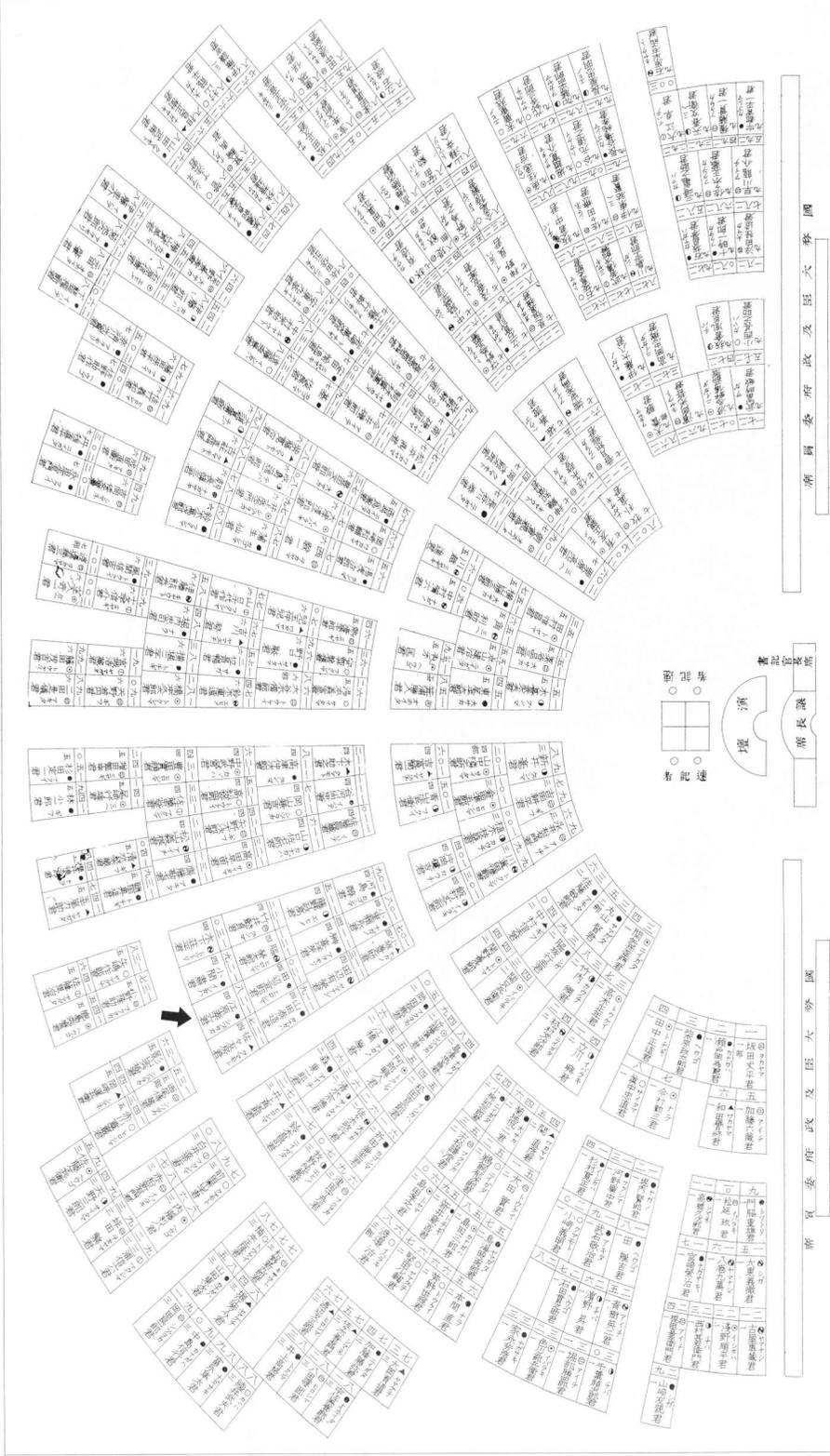
第十條 傍聴券ハ傍聴券ヲ守衛ニ示シ其指示スル處ニ於テ之ヲ取リ得ル

第十一條 傍聴券ニアルモノハ左ノ事項ヲ遵守スルシテ

一 傍聴券ハ得又ハ洋服ヲ着スルヘシ

二 帽又ハ外套ヲ着スルヘカラス

- 議長 津島 信行君
- 副議長 大東 義藏君
- 書記官長 曾根 義躬君
- 第一部長 八河 巻野君
- 第二部長 高田 正弘君
- 第三部長 前田 徳三郎君
- 第四部長 木田 幸吉君
- 第五部長 増田 早苗君
- 第六部長 鈴木 武太郎君
- 第七部長 伊伊 小安君
- 第八部長 安住 佐基君
- 第九部長 藤藤 林蔵君
- 書記官 藤藤 八智君



第2議会 衆議院の議席図

お知らせ欄

◎企画展「江原素六とその時代」の開催

七月一日(水)から八月三十日(日)までの開期で、企画展「江原素六とその時代」を開催しています。江原素六先生誕生百五十年にあたり、彼が生きた幕末から明治・大正の時代を彼の生きざまを通して通観していただければ幸いです。日記・手紙・写真・墨蹟など、八〇〇〇点の資料の中から常設展示には出していない資料などを多く展示しておりますので、この機会に是非御観覧下さい。



▲企画展「江原素六とその時代」



江原素六先生誕生150年記念式典のようす

◎江原素六先生誕生百五十年記念式典の開催

去る七月十九日(日)、午後一時三十分からブケ東海を会場に、(社)江原素六先生顕彰会主催の江原素六先生誕生百五十年記念式典が行われました。実行委員長(顕彰会長)による式辞、市長・麻布学園校長・沼津西高校長の祝辞、江原有信氏(素六令孫)の謝辞のあと、江原素六創立の麻布中学校・高等学

校卒業の衆議院議員橋本龍太郎氏が挨拶をしました。さらに、同じく同校出身の高知県知事橋本大二郎氏が「麻布に学んだこと」と題して記念講演を行いました。

約六百名が参加する中、式典は盛会裡に終了し、その後参加者約百名が当館の企画展「江原素六とその時代」を観覧しました。五時から記念パーティーも開かれました。

◎江原素六先生誕生百五十年記念誌の発刊

江原素六の生涯と業績を写真をふんだんに盛り込み解説してあります。B5判一〇七ページ、頒価二五〇〇円。

◎江原素六先生誕生百五十年記念絵はがきについて

江原素六の肖像・墨蹟などを絵柄にした五枚一組の絵はがきです。頒価三五〇円。

◎沼津市明治史料館史料目録12刊行の御案内

『平沢区有文書目録』 B5判 八八ページ、頒価一一〇〇円。

◎児童用のパンフレットを作成しました

これまで来館者一般に配布していたパンフレットとは別に、「江原素六ってどんな人？」と題した児童向けのやさしいパンフレットを作成しました。来館の節にはどうぞ御利用下さい。

◎古文書解読入門講座の受講生を募集します

古文書にはじめて接する初心者を対象とした入門講座です。受講申し込みは当館までお電話で。

日程・10月10日、17日、24日、11月7日、14日の各土曜日(5回)

時間・午後2時～4時。

場所・明治史料館講座室

講師・友野博氏(沼津市文化財保護審議会会長)

受講料・無料

テキスト・当館で用意

*古文書辞典をお持ちでない方は郵致致します。

沼津市明治史料館通信 第30号

編集 沼津市明治史料館 発行

〒410 沼津市西熊堂三七二-1 電話 〇五五九一三三三三五 FAX 〇五五九一五三〇一八